

学校の教育目標 「仲間と共にくましく生きる生徒」



高富中学校だより

R5.7.24
8月号

とある夏の思い出

私の若い頃(昭和60年頃)友人3人と夏休みを利用し旅行に出かけた時の話です。その頃は、10,000円札と5,000円札は共に聖徳太子が肖像画でよく似ていました。友人の車で旅行中にとある高速道路のサービスエリアに立ち寄り売店に行ったら、観光シーズンということもあり多くの客でごったがえしていました。私は100円の缶ジュースを手に取り、店員に5,000円を渡したら忙しいためか、10,000円と間違えて9,900円のおつりを渡して、次の客の対応をし始めました。私は店員の間違いに気づき、大きな声でその店員を呼び「おつりが多いよ」と言って5,000円を店員に渡しました。店員は「あっそ」といって5,000円をうけとり、次の客の対応を再び始めました。

この話を一緒にいた友人2人に話すと、一人は「損したな」と言い、もう一人は「そのうち良いことがある」なんて言い笑っていました。その時、5,000円だから店員に返したけど、100円くらいの間違いだったら自分はどうしていただろうと考えた自分を今でも鮮明に覚えています。

ひびきあいの日：私たちの楽幸～あなたが高中を輝かせている～

今年度の生徒会スローガンは「私たちの楽幸～支え合える仲間～」です。

学校の楽しさやみんなの幸せを願う思いが詰まっています。サブタイトルを決めるに当たって、全校にアンケートを取るなど仲間の考えを実現しようと、執行部が中心となって動きました。また、学校の廊下には、誰もが安心して楽しく過ごせるための意見箱として「目安箱」が設置されました。

そして、7月6日「ひびきあいの日」。学級の仲間のよさをお互いに伝え合いました。仲間からの嬉しい言葉に思わずにっこり笑顔の生徒、照れくさくて下を向いてしまう生徒…。どの学級からも温かい拍手に包まれ、とてもあったかな雰囲気が伝わってきました。生徒たちは高中を輝かせる大きなパワーをもっています。仲間を想う優しさに高中生としての誇りを感じます。

令和5年度 高富中学校 ひびきあいの日

あなたが“高中”を
輝かせている



石の上にも。。。

職場の上司が、就職した息子にかけた言葉が「3年は辛抱しろよ」でした。なるほど、「石の上にも3年」ということか、とかけた言葉に感心しました。そこで思ったのが、中学・高校も3年間ということ。やはり3年に意味があるのだろう思いググってみると、下記の記事がヒットしました。

「第2次世界大戦後、中学校までを義務教育にしようと試みたが、小学校の6年間に加えてさらに中学校の5年間を義務教育化するには資金が足りなかった。そこで、中等教育を前期の中学校、後期の高等学校に分け、中学校までを義務教育にした。つまり『6・3・3』は妥協策だったのだ。思っていた答えではなかったが、3年にしても5年にしても『ある程度の長い期間』であることには変わらない。2022.11.24 東洋経済オンラインより」

さて、私の子どもは3年生です。1年から入った部活も県大会を控え、そろそろ終わりを迎えようとしています。私は何かないと親としての言葉をかけてあげられませんでした。部活にしても最初に言葉はかけてはあげられなかったけれど、子どもにとっての3年間に、最後に良い言葉を贈れないか模索中です。